月報　2022年　10月31日　№381

四方通信

石城山岳会

10月号

石城山岳会事務局編集

栂海新道（北又登山口から親不知）

雨飾山(1963.3m)、鋸岳(1631m)

荒沢岳リベンジ

10月教室山行「八ヶ岳」（蓼科山）

10月教室山行「八ヶ岳（蓼科山)」

八ヶ岳（蓼科山）テント泊

雲海・滝雲・紅葉　すばらしかった越後駒ヶ岳

念願の山　丁岳（ひのとだけ）（1145.6m・一等三角点）

只見線の山旅

移ヶ岳（994.5m）周回。うつくしま百名山・船引五山

常葉鎌倉岳（966.8m）萩平登山口往復

栂海新道（北又登山口から親不知）

９月30日(金)～10月２日(日)　渡辺(敏)

栂海新道へは９月月例山行でみんなと一緒に行く予定であったが、直前に参加できなくなってしまった。出発する状態でザックを準備していたので、一人で行こうと思い、天候を見ながら行く日を待っていた。台風が通過して天候が安定したので、出かけることにした。

９月30日（金）

29日（木）に親不知観光ホテル前の駐車場で車中泊をし、30日（金）５時に予約をしていたタクシーに乗って、登山口の北又に到着した。おおよそ１時間。６時になると夜が明け明るくなってきた。歩きやすい登山道だ。９月も下旬頃になると風も涼しくなり、それほど汗をかかなくてすみ、飲む水の量も少なくてすむ。イブリ山に到着すると視界が開け、正面に朝日岳を望むことができる。今日は絶好の秋晴れだ。イブリ山では10時頃なので、お昼過ぎには朝日小屋に到着できそうだ。

コースタイム

北又 6:05→朝食 7:18 7:31→イブリ山 9:51 10:10→朝日小屋 12:31

イブリ山から朝日岳

朝日小屋のテン場

10月１日（土）

昨晩は結構冷えて一面に霜が降りている。朝日岳山頂で朝日が見られるように、4:30分頃に出発した。朝日岳山頂には日の出の５分ほど前に到着。日の出を見て、後立山連峰と、立山、剱岳の峰々を見渡すことができる。しばらくすると10名ほどの登山者が登ってきた。先を急いで、吹上のコルの先で朝食をとる。吹上のコルから黒岩山の間の池塘や池が広がるなだらかな草原台地は、秋晴れのせいもあってとても気持ちがいい。黒岩山を越えて犬ヶ岳の手前に水場があり、今夜と明日の次の水場までの水の補給をする。５分ほど下ったところに、岩の間から清水が流れている。きれいな水場だ。お昼を食べ、40分あまりの休憩を取る。犬ヶ岳へはすぐにつくかと思ったが結構時間がかかった。犬ヶ岳を超えるとすぐに栂海山荘に到着した。テン場は草原の上だ。山荘には10人ほどの小屋を管理している人たちがいて、小屋の掃除や周りの片付けをしている。小屋の宿泊者は北又から同行してきた二人の登山者だ。テントは私一人。早く到着できたので早めに夕食をとり夕暮れと同時に就寝した。

朝日岳山頂から黎明の白馬岳、剱岳方面

アヤメ平

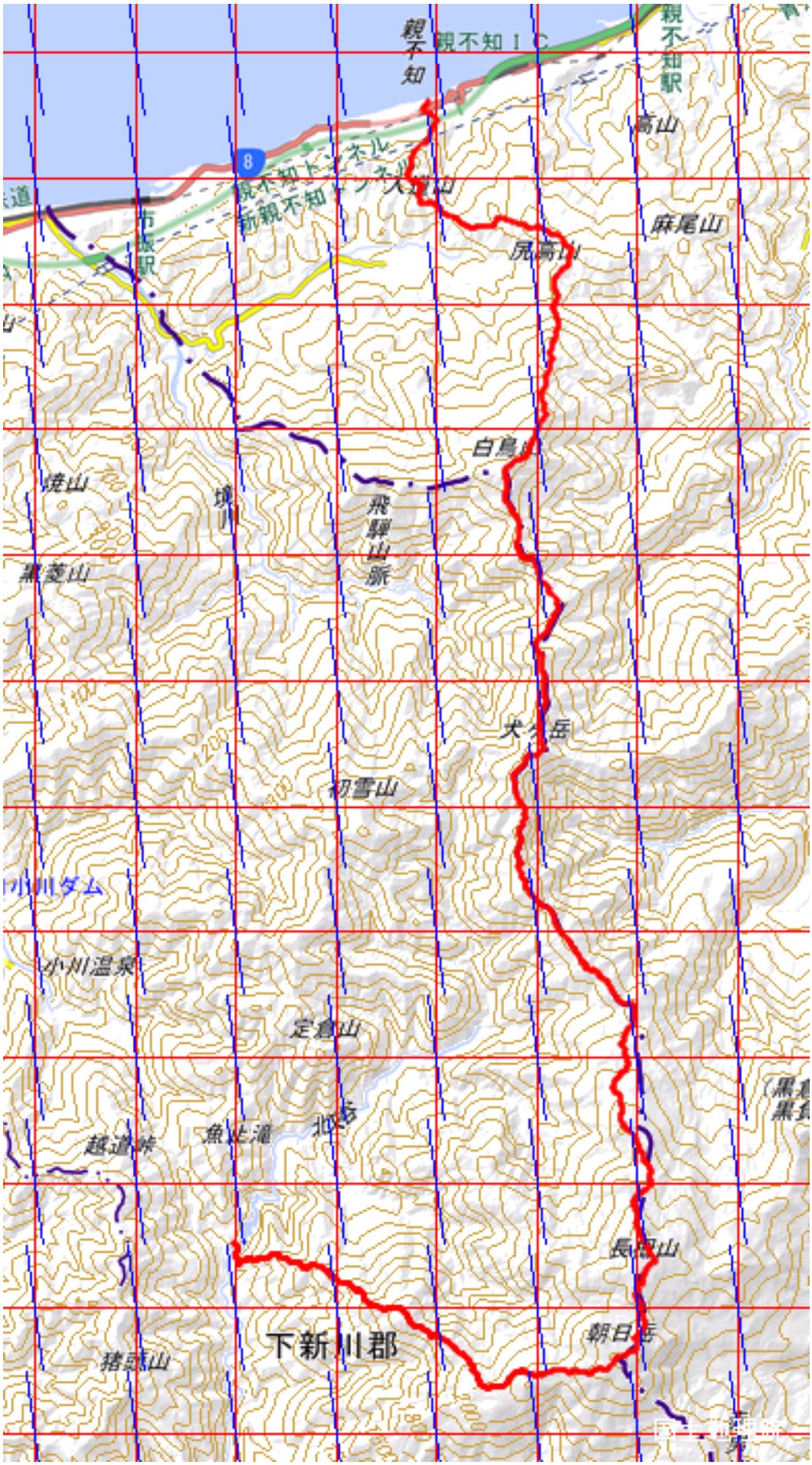
コースタイム
朝日小屋 4:29→朝日岳 5:35　5:52→吹上のコル 6:14→朝食 6:20　6:36→黒岩山 9:25→文子の池 10:03　10:18→サワガニ山 11:50→北俣の水場 11:59　12:40→犬ヶ岳 13:46→栂海山荘 13:51

10 月 2 日（日）
　3 時頃に起床して 4 時過ぎにヘッドランプをつけて出発した。就寝したときにはなかったテントが張られて、すでにその人も起きて出発の準備をしている。昨日どこから来たのかを尋ねたところ、白馬岳から来たとのこと。二日がかりのコースで 15 時間ほどかかる、かなりの長丁場だ。しばらくして、黄連の水場を通過。菊石山へ登りにかかる頃に空が明るくなり始めた。下駒ヶ岳の登りは、かなりの急斜面できつい。下駒ヶ岳の山頂で朝食だ。白鳥山に近づくと山頂にある小屋がちらちらと樹間越しに見える。白鳥小屋はきれいな小屋だが、樹木に囲まれて山頂からの展望はない。白鳥山を通過してしばらく進むとシキ割りの水場に到着。水を少し補給して先に進む。白鳥山から先は、樹林帯で残念ながら見晴らしは期待できない。しばらくゆるやかに登って下る。坂田峠への金時坂は結構な急斜面だ。日曜日なので、坂田峠から白鳥山への数名の登山者とすれ違う。坂田峠を通過して尻高山にむかう。比較的なだらかな登りが続く。山頂から下っていくと道路に出る。道路を横切って進むと、二本松峠に着く。二本松峠からは少し登った後、親不知の海抜ゼロメートルまで高度を下げてゆく。鉄塔を過ぎると日本海が見えてくる。ようやくゴールが近づき、フィナーレを迎える。親不知の日本海がゴールなので、日本海まで階段を下り波打ち際でゴール。2 泊 3 日の秋晴れの楽しい山行でした。

下駒ヶ岳の下りから白鳥山と山頂の小屋

コースタイム
栂海山荘 4:16→菊石山 5:57→下駒ヶ岳 6:35　6:57→白鳥山 8:03　8:11→シキ割水場 9:02→坂田峠 10:04→尻高山 10:51 11:05→車道 11:37→二本松峠 11:54→入道山 12:11→日本海 13:13

文責　渡辺(敏)


親不知
親不知ＩＣ
親不知駅
高山
8
親不知トンネル
新親不知トンネル
大倉山
麻尾山
市振駅
尻高山
白鳥山
焼山
境川
飛騨山脈
黒菱山
犬ヶ岳
初雪山
小川ダム
小川温泉
定倉山
越道峠
魚止滝
北股
長栂山
朝日岳
下新川郡
猪頭山

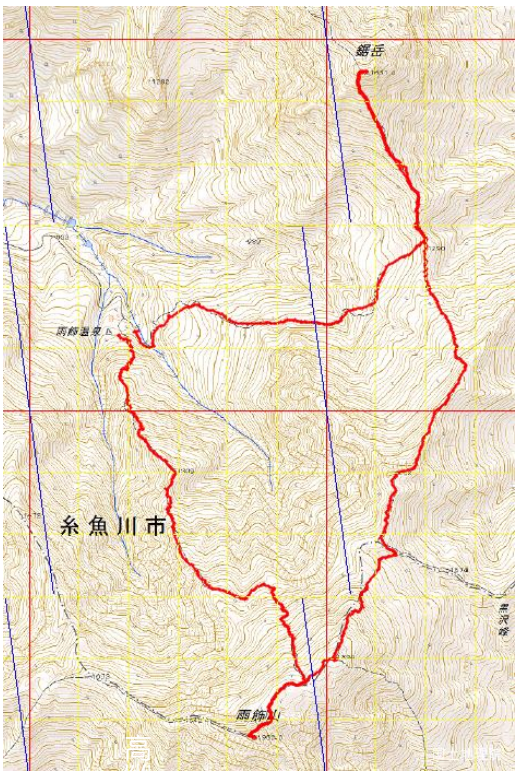
雨飾山(1963.3m)、鋸岳(1631m)

10月3日(月)　渡辺(敏)

雨飾山山頂から乙女の横顔と海谷三山

鋸岳山頂から雨飾山

10月2日に栂海新道を下山して、次の雨飾山の登山口の雨飾山荘に来て車中泊した。雨飾温泉につかり、久しぶりの入浴を楽しみ冷たいビールを飲んでぐっすりと眠った。この日の天候は曇りがちで、栂海新道の時のような秋晴れではない。しかし、雨の心配はなさそうだ。ヘッドランプをつけながら、夜明け前に出発し登るにつれて明るくなってきた。比較的歩きやすい登山道だ。2時間半ほどで尾根に上がり、笹が広がる草原を横切り急斜面を登り雨飾山の山頂に到着した。山頂からは昨日まで登った栂海新道の犬ヶ岳、白鳥山の稜線、後立山連峰、妙高の火打山、焼山などを見渡せる。笹原の登山道が乙女の横顔に見えると教えてもらう。次に、山頂を後にして鋸岳に向かう。雨飾山の稜線を外れると、登山者はいなくなる。登山地図では破線のバリエーションコース。しかし、きれいに刈り払われて歩くのに気持ちがよい。登山道整備の人たちに感謝。一人で黙々と歩いて金山への分岐の大曲にでると、三人組の登山者に出会った。地元の山岳会の人たちで、登山道の刈り払いをしている人たちとのこと。お礼を言って先を急いだ。所々、慎重を要する箇所がいくつかあったが、最近取り付けられたきれいなはしごが所々につけられて、無難に通過することができた。鋸岳への登りは、頂上近くに固定ロープが連続して張られて、ロープにつかまりながら登って行った。3時過ぎに雨飾山荘に到着した。今日一日の歩行時間は9時間30分ほど。昨日までの重い荷物に比べ、軽いのでありがたく感じた。



コースタイム

雨飾山荘 5:29→中の池 7:00 7:10→尾根 7:57→雨飾山 8:17 8:37→笹平 9:03→大曲り 9:37 9:48→鋸岳鞍部 11:13 11:28→鋸岳 12:48 13:08→鋸岳鞍部 13:48 13:59→雨飾山荘 15:08

文責　渡辺(敏)

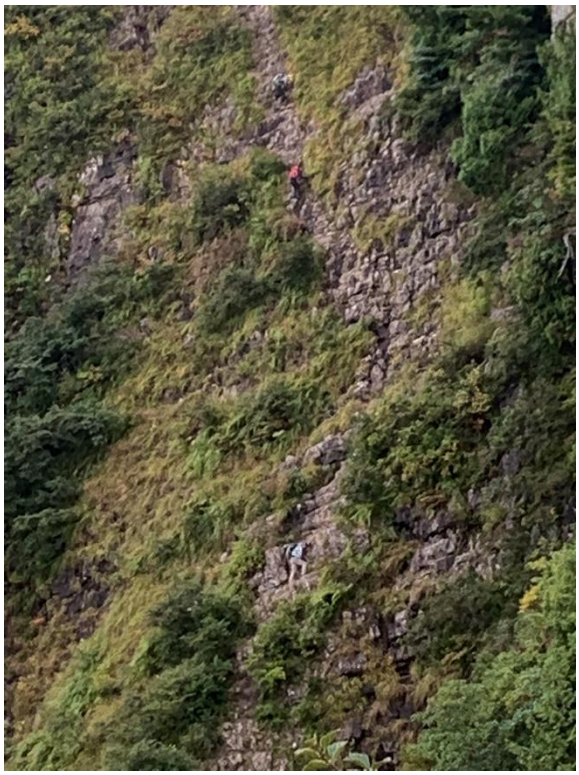
荒沢岳リベンジ

2022 年 10 月 3 日(月)・4 日(火)
秋葉、山中、栗崎(透)、栗崎(容)

10/3　檜枝岐経由で銀山平まで。途中、田島で昼食と今日の天気祭りの食材の買い物。
　　16：00 から荒沢岳登山口で盛大に天気祭り。
　　ここまでは、前回レポと一緒。山中さんが加わってくれたので、大いに盛り上がる。

10/4　　5：00　荒沢岳登山口出発。
８月はすでに明るかったが、さすがに 10 月は真っ暗闇。ヘッデンをつけてゆっくりと慎重に歩きだす。今回は荒沢だけピストンなので、ザックは軽い。気温も低く、時折爽やかな風も吹いている、これなら山頂を踏めそうだ。
８月には、可憐な白い花をつけていたアブラツツジも、葉を赤く染めて早くも冬支度。
前回苦労した、前嵓の登りも軽やかに岩をつかんでグイグイ高度をかせげる。
敗退した地点をすんなり超えて、前嵓の山頂に到着。さすがに汗だくに。
ここからも、まだコースタイムで２時間。でも、汗は絞られるが 10 月の乾いた空気は気持ちがいい。
鎖や梯子もある楽しい登山道をのぼりつめて、11 時前には登頂を果たした。
山頂からは８月に行く予定だった縦走路がうらめしく延びている。
兎岳、中岳、越後駒ヶ岳もぐるりと見渡せた。今日なら行けると心で思った。
下りは登りよりも慎重にのんびり歩いて、15 時登山口に戻ってきた。
同行の皆様のおかげで、８月のリベンジを果たせた。

文責　栗崎(透)



10月教室山行「八ヶ岳」（蓼科山）

2022年10月9日(日)・10日(月)

1班：西村(淳)、比佐、種市、中山、西(重)、菊地、佐藤(春)
2班：松崎、佐々木、国井、猪狩(由)、下山田、青天目、根本
3班：西村(里)、西田、赤塚(園)、安部、二瓶、太
4班：芳賀、伊藤、秋葉、赤塚(将)、佐藤(幸)、柏村

計画書参加者名順　敬称略

教室生９名（赤字表記）会員17名（青字表記）計26名

山行データ各種

＜一日目＞曇りのち雨

さてさて～夏が過ぎ、やっと涼しい毎日がぁ、、、と思いきや、あっという間に時は晩秋。予報ではこの日程のお天気はというと、曇り～雨、風も強そうと、さして期待が高まらない中、一同北八ヶ岳ロープウエイ山麓駅を目指して貸切の中型バスにて合同庁舎を予定通り４時に出発した。とはいうものの、特に教室生の多くは（たぶん）2,500m超のピークを目指すのは初めて（のはず？）で、見た目には判らなくても、心の中ではテンションアゲアゲ。更に高速のＩＣを降り、メルヘン街道を走っていると鹿さんのお出迎え、テンションは一気にマキシマムな中、ロープウエイを経て山頂駅に到着。お天気は？雨ではない。よし、悪くはない！二日間の無事を祈りつつ、10:42班毎に山行スターティン。

一同ロープウエイ山頂駅にて

曇天映えの蓼科山　明日は晴れると良いなぁ

50 分ほど歩き、標高 2,400m の北横岳ヒュッテに到着、班毎に 45 分ほどのランチタイムを終え、各班本日のピーク北横岳を目指し 12:27 にリ・スターティン。北横岳ヒュッテから歩くこと 15 分、南峰を経て、北横岳山頂標高 2,480m に到着。北西の方角には明日登る蓼科山が曇天映えで美しい。北横岳山頂を後に亀甲池へ向かう。要した時間は 80 分、水平距離が 1.44 ㎞、標高差 453mで、斜度よりも岩が湿っていて歩き難く体力が削られた。畔で休憩を取っていると雨が降り出したため、一同カッパを着て双子池ヒュッテに向かう。途中、キャンプ場では先に到着の方のテントが数張張られているのを確認しながら亀甲池から 53 分ほどで双子池ヒュッテに到着した。受付を済ませ、小屋泊組 22 名とテント泊組 4 名に別れた。小屋泊組は今夜の寝床の大広間に通され小屋の説明を受けた後、ゆっくりと休息をとった。

＜二日目＞雨

起床後、準備をしているうちに雨が降り出した。中途離脱を予想し、携帯の電波が届くところまで移動のうえ大河原峠に 8:30 にバスを手配していただいた。7 時前に小屋泊組とテント泊組がヒュッテ前で合流した頃に本降りになってきた。何名かの方から「カッパはズボンの方が重要」と教えていただいた。経験が浅い初級者には山行では下半身の方が濡れやすいとピンと来ていない。実践に則したアドバイスはとても参考になる。準備が整い 7:04 班毎に二日目の山行をスタートした。

一同双子池ヒュッテ前にて

蓼科山登山の案内看板

二子山山頂付近では油断すると持っていかれそうな程の強風の中を進み 7:55 山頂着。雨風のため、山頂での滞在は写真撮影程度にとどめ先に進む。二子山からの下りは雨のため滑りやすく、体力を消耗しながら水平距離 0.72 ㎞標高差 132.8mを 25 分で下り、大河原峠に到着した。蓼科山登山の大きな案内板が設置されており、コースの危険個所など注意事項が記されている。「常に風が強い」「大岩が重なっていて滑りやすい」などネガティヴな記述が多い。当日の天候を考えると不安な気持ちがマキシマム、山行意欲がダダ下がりである。山行続行か離脱かを確認した結果、全員一致で離脱の選択となった。帰り支度後バスで移動し、10 時からオープンの「あさひな温泉穂の香の湯」で温泉をいただき、途中 2 ヶ所の道の駅に寄り、食事をしたり果物や「峠の釜めし」などのお土産を調達し終え、バスで合同庁舎に向かう。

全員一致での離脱を決めた直後残念というよりホッとした感が否めない

秋葉講師によるプチ山岳講習

着時刻が 17:30 頃と見えた矢先、バスに走行困難のトラブル発生。トラブったバスを騙し騙し「道駅しもにた」まで移動し、代替えのバスが北茨城から来るのを待つことになった。道の駅散策にも飽きた頃、バスに戻ってみると、流石は石城山岳会、プチ山岳講習が始まるところだった。プチ山岳講習をしているうちに辺りは薄暗くなり、やがて代替えのバスが到着。見ると大型バスではないか！何となく得をした気分になった？　あらかじめバスの外に出しておいた荷物を大型バスに積み込み「道の駅しもにた」を出たのが 17:30 頃、その後は何事もなく順調な走行で合同庁舎に到着し、本来予定していたより一時間遅れの 21:30 頃解散となった。

いろいろな意味で盛りだくさんな 2 日間ではあったが、人身的なトラブル無く全員無事で帰って来られて何よりであった。

後記

石城山岳会会員の皆様にはいつも種々ご指導ご鞭撻を賜り、厚く御礼を申し上げます。また、教室生の皆様にはいつもお付き合いを賜りありがとうございます。山行記録を書かせていただき、余白がございましたので綴らせていただきます。

先輩の皆様の細やかな配慮に関しては、お会いする度に驚かされるばかりでございます。恐らくは、命に係わる遊びである登山を通して培われたものだと存じます。私も、少しでもそのような配慮のできる山の人となりたいと思う次第であります。

今回の八ヶ岳のバスのトラブルで感じたことです。バスを停め、代替車が北茨城から来ることになっても 26 人も居て皆さんジェントルな振舞い、大人の余裕を感じました。私は、策はないかとあがくタイプですが、流れに身を任せる皆様のスタンスは素晴らしいと感じました。時間を有効に山岳講習を始めるところなんかは、小股が切れ上がった感じw　ですね。

ザックには必ずカッパを入れて山行に臨んでおりますが、実は一度も着用したことがありません。暑がりで寒がりで汗かきなため、蒸れることを嫌ってのことです。そんな私が 59 歳になったばかりの 10 月 9 日 16 時頃、小屋の説明を受けた後、震えるほどの寒さに耐えきれず 90 分程布団に潜り、やっと収まった次第です。翌朝、あいにくの雨。私はやはりカッパを着用することなく山行開始。大河原峠でバスに乗り温泉に着くまでの約 60 分寒さでガタガタ震えていました。これって低体温症一歩手前？　今後は、山行で雨が降った場合は、とりあえずカッパを着用し、後はどうするかを考えることにします。

文責　西村(淳)

10月教室山行「八ヶ岳（蓼科山）」

2022年10月9日(日)・10日(月)
教室生　男性３名　女性６名
会員　男性10名　女性７名

＜1日目＞10月９日（日）
天気は曇り。北八ヶ岳ロープウェイ山麓駅よりロープウェイに乗車。ロープウェイからの景色はほとんど見えず晴れていたらどんな景色だったのかと残念な気持ち。７分ほどで八ヶ岳ロープウェイ山頂駅に到着。登山開始。少し登っていくと雲海が広がっていて絶景だった。北横岳ヒュッテに到着したころ、手の震えを感じる。気のせいかと思っていたが、会員の方に頂いたポリッピーチョコを食べおむすびを食べると震えはなくなり、朝食後飲み物しかとっていなかったな、低血糖だったのでは・・・会員の方が、「少しずつちょこちょこ食べたり、飲んだりしたほうが良い。」とほかの教室生に話をしていて私も対策を考えようと、反省。

七ツ池を見た後、昼食をとり北横岳南峰を目指し登山再開。北横岳南峰に到着すると風が吹いていて非常に寒い。明日登る予定の蓼科山がきれいに見える。遠くの山は霞かすんでいたが、山に登らないと見ることができない雲海を堪能できた。北横岳北峰到着。歩いているときは良いが止まると寒く、景色を楽しむ余裕なく、次の亀甲池へ下山開始。亀甲池が見えたころから雨が降り出し、着くころには少しずつ雨が強くなってくる。カッパを着ての山行。かっぱの撥水のすごさに感謝。下山途中、石で滑り２度ほど転倒。けがはなかったが、打撲で少しの痛みと内出血斑ができていた。「石の上や木道の上は気を付けないと。」と思っていたのに、また反省。双子池ヒュッテにつく頃には土砂降りになっていた。山小屋に入っても寒かったが、夕食の豚汁がとてもおいしく、身体も温まった。

＜2日目＞
朝食に少し大きめの豆腐そぼろあんかけ、山小屋の朝食はたんぱく質が豊富だなと感じている。
朝から、天気は曇ったり、雨が降ったりと変化。今日は朝からカッパが必要かな。少し早めに靴を履いて準備をしていたがだんだん雨足は強くなる。上はカッパを着ていたが、下はズボンのまま。会員の方から、「下もカッパはかなきゃだめだよ。」との声が。登山靴を脱がないとカッパのズボンは履けず。周りの方は裾が開くタイプのものを準備されていて・・画期的。
準備を整えて出発。双子山まで雨と風の中の登山。景色は見えずひたすら登っていく。昨日とは比べものにならない強風。山頂近くになると荒地となり風がまともに体に吹き付けよろけそうになり、雨粒が顔にぶつかり痛い。１時間ほどで双子山山頂に到着。とりあえず写真を撮り下山。風上に木があったり、針

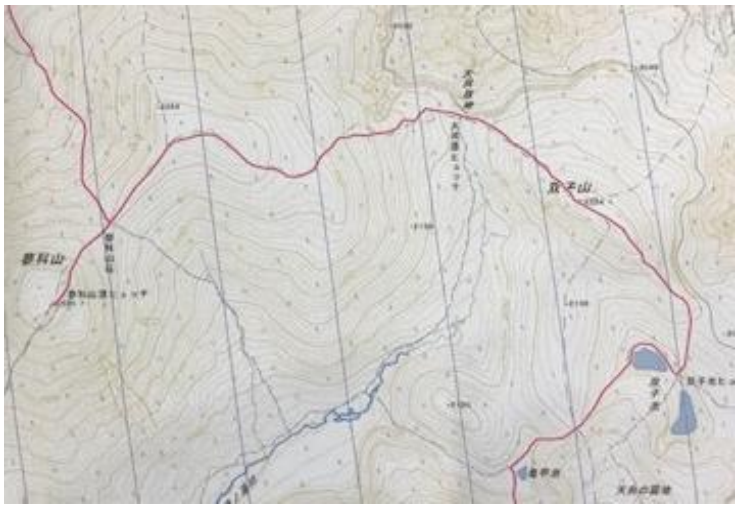
葉樹林に入ったりするとこんなにも風が弱くなることを実感しながら大河原峠へ。本日は悪天候のため、蓼科山への山行は中止。蓼科山に登れないのは残念だが、山の気候や状況を的確に判断することが非常に大切であることを学ぶことができた。
帰る途中、横川サービスエリアを出て、下仁田インターの手前で帰りのバスが故障。高速道路を降りー安心。道の駅下仁田で、代わりのバスが来るまで待機。その間に、ロープの講習会を実施。知識や経験豊富な会員の方々から教えていただくことがたくさんあった山行だった。今回学んだことを次回に活かしていきたい。

コースタイム

＜1 日目＞
北八ヶ岳ロープウェイ山麓駅 10:10→北八ヶ岳ロープウェイ山頂駅 10:35→坪庭 10:50→北横岳ヒュッテ 11:30→北横岳南峰 12:25→北横岳北峰 12:40→亀甲池 14:20→双子池ヒュッテ 15:25

＜2 日目＞
双子池ヒュッテ 7:00→双子山 8:00→大河原峠 8:30

（文責　西村(里)）



八ヶ岳（蓼科山）テント泊

2022 年 10 月９日（月）～10 日（火）
参加者　登山教室生９名、山岳会員１７名
内テント泊者　秋葉、青天目、西田、安部

10 月の登山教室に参加しました。今回は長野県の八ヶ岳の北横岳～蓼科山一泊二日の縦走による山行です。本報告書はテント泊についての報告をします。

「テント泊タイム」
双子池ヒュッテ 15:30　→　テント場着 15:35　→　設営開始 15:40～16:15→夕食・懇親会 16:30～20:30　→　就寝 21:00　→　起床 5:00　→　片付け・各自朝食・テント撤収～6:45 出発→　双子池ヒュッテ着 6:50

・テント設営場所状況----高木樹林の中で笹竹の斜面であった。比較的平地のような場所を刈払いしてテント場としていた。
・当日は天候が悪く、事前の段階でも天候不良の情報があったためテントを張っている人は少なかった。他者２張り、当グループ２張りの計４張りでした。
・夕食献立----おじい３人組は「ハムと玉葱焼きのパイナップル添え」と「南部せんべいの入ったきのこ汁」、西田さんは「すき焼き」でした。
・濡れた着衣はテント内で着用しながら自分の体温と料理時のバーナーの熱で乾かすとのこと。実践しました。
・朝食は各自で私はパンと野菜ジュースでした。

亀甲池に着いた頃から雨が降り出し、双子池ヒュッテ到着時には本降りとなっていた。テントは雨に中で濡れながらの設営であった。16：３０頃、どうにか設営もできタ食には少し早いが懇親会・夕食を始めた。今回の料理長は秋葉さんです。まずはビールレ乾杯し、ハムと玉葱を焼きパイナップルを乗せるとこれがたまらなく美味しくビールがはかどってしまいます。いろいろな話をしながらメインディッシュの南部煎餅入りのきのこ汁を頂きました。これが雨に濡れて冷えた体に染み入ります。焼酎もはかどります。西田さんのすき焼きも美味しそうでした。テント内ではバーナーで暖を取り、なおかつ着ている服を乾かします。話は尽きませんでしたが焼酎が無くなったのをタイミングとして宴会を終え 21：00 に就寝としました。夜中の零時頃？で雨はやんだようですが、風が吹き出しました。夜半

過ぎからは強風となりましたが林の中だったので直接テントに風は当たらなかったので助かりました。樹木の上部は大揺れでざわざわと音がすごかったです。テント泊にも慣れてきてよく眠れました。何事も経験を積むということが大事ですね。夜中はそれ程寒くもなく寝袋＋合羽で調度でした。朝になり寝袋を片付け各自朝食を取りテントを撤収し、ほぼ時間通り双子池ヒュッテに向かう事が出来ました。夜中に雨はやんでいたのですが朝からまた降り始め、歩き始めると強風で蓼科山は諦めました。

今回は雨のテント泊でした。降雨時のテントの設営、荷物の置き方、濡れた着衣の乾かし方、登山飯等々の貴重な経験をさせていただきました。

最後にこの山行を企画しご尽力を頂いた幹事さん、ありがとうございました。貸し切りバス運行のため行き返りの車の運転を気にすることなく山行を大いに楽しむことが出来ました。楽しかったです。

（文責:安部）

雲海・滝雲・紅葉 すばらしかった越後駒ヶ岳

2022 年 10 月 15 日(土)

小林

一度行って見たかった越後駒ヶ岳へ行ってきました。残念ながら山頂は雲の中で景色は見れませんでしたが、素晴らしい雲海・滝雲と紅(黄)葉を楽しめました。

金曜日　仕事が終わってから枝折峠へ。下道で檜枝岐から国道 325 号で枝折峠へ向かいましたが檜枝岐から約 1.5hr、くねくね道は疲れました。途中暗闇の中 4 回キツネに出会いました。熊に出会わなくてよかった。

この時期、銀山平と魚沼側から雲海観光用のシャトルバスが出ていますが、登山用の帰りは 15:00 発の一便のみ。ここは何としても枝折峠の駐車場へ、12 時前に枝折峠駐車場に到着すると道路沿いの駐車場にはまだ 10 台程度で車中泊できました。

翌朝 4:30 頃起きると既に駐車場は満車でした。

ゆっくり準備してヘッデンがいらなくなってからスタートしましたが、さすがに有名なだけあってスタートから雲海が素晴く、また、向こうに見える荒沢岳も格好いい山容でした。

少しずつ高度をあげながらが雲海、滝雲、荒沢岳の景色を楽しみつつ登り、明神峠手前のお社到着しに安全祈願して山頂へ向かいます。

登山道はウェットで所々ぬかるみもありました。振り返ると歩いてきた稜線にガスがかかり初めましたが、赤黄緑のグラデーションの景色に度々立ち止まります。

小倉山を越えるといよいよ急な登山道で、山頂下には岩場があります。岩登りは好きですが、ここ

の岩は好きなタイプではなく歩きにくかったです。

かなりへばってきた頃、ようやく駒ノ小屋（アンテナ？）が見えました。残念ながら駒の小屋から上はガスガスでした。小屋前にザックをデポして山頂へ向かいました。

山頂は雲の中で景色も見えないので記念撮影して即下山しました。駒の小屋前の広場は以外に混雑しておらずゆっくり休憩してから下山しました。岩や泥道、泥の付いた木道や階段とトラップは盛沢山なので、滑らないよう気を付けて歩いたためか下山の方がすごく長く感じました。

下山が核心部かと思いますが、やはり 352 号の運転が今回の核心でした。

山頂の景色は望めませんでしたが、雲海、滝雲、紅葉と素晴らしい景色を楽しめた一日でした。

荒沢岳も行って見たい。

【コースタイム】　（14.7km　登り 1,328m）

枝折峠登山口 5:37～6:10 明神峠～7:03 道行山～759 小倉山～8:52 百草ノ池～10:23 駒ノ小屋～10:50 駒ヶ岳 10:58～11:12 駒ノ小屋 11:50～12:37 百層ノ池～13:10 小倉山～13:52 道行山～15:02 明神峠～15:29 枝折峠登山口

（文責 小林）

念願の山　丁岳（ひのとだけ）（1145.6m・一等三角点）

2022 年 10 月 16 日(日)　秋葉、国井、安部

丁岳は鳥海山から秋田と山形の県境を連なる稜線（丁山地）の主峰で、標高は低いが多くの奇岩が積み重なった断崖とブナを主体とする天然林の魅力一杯の山です。

以前から行きたいと思っていましたが、遠いのと、数年間通行止めで行けなかった。今回同行の士を得て山行することができました。前日発で、道の駅「鳥海郷」の近くのコープで買い物、大平野営場にテント泊。

登山口から林道を少し進み沢を渡る。急斜面を登り尾根に取りつく。尾根も急登が続き、観音岩を過ぎると本コース唯一の水場がある。さらに急登が続くが、ブナ林から灌木に変わると傾斜もゆるくなり、お花畑と地蔵岩の分岐に着く。お花畑からは手前の紅葉と秀麗な鳥海山、胸がすくような展望であった。

地蔵岩に回り丁岳頂上に着く。灌木で展望はない。せっかく来たのだから観音森コースを縦走することにする。急にガスって来て真白な世界の尾根道を行くが、片側は岩壁で気が許せない。

縦走路を進むと、ガスの中からこれから進む急峻な峰が紅葉の衣をまとった姿を見せてくれた。ガスも晴れ月山、神室連峰、岩木山、八甲田も見える。

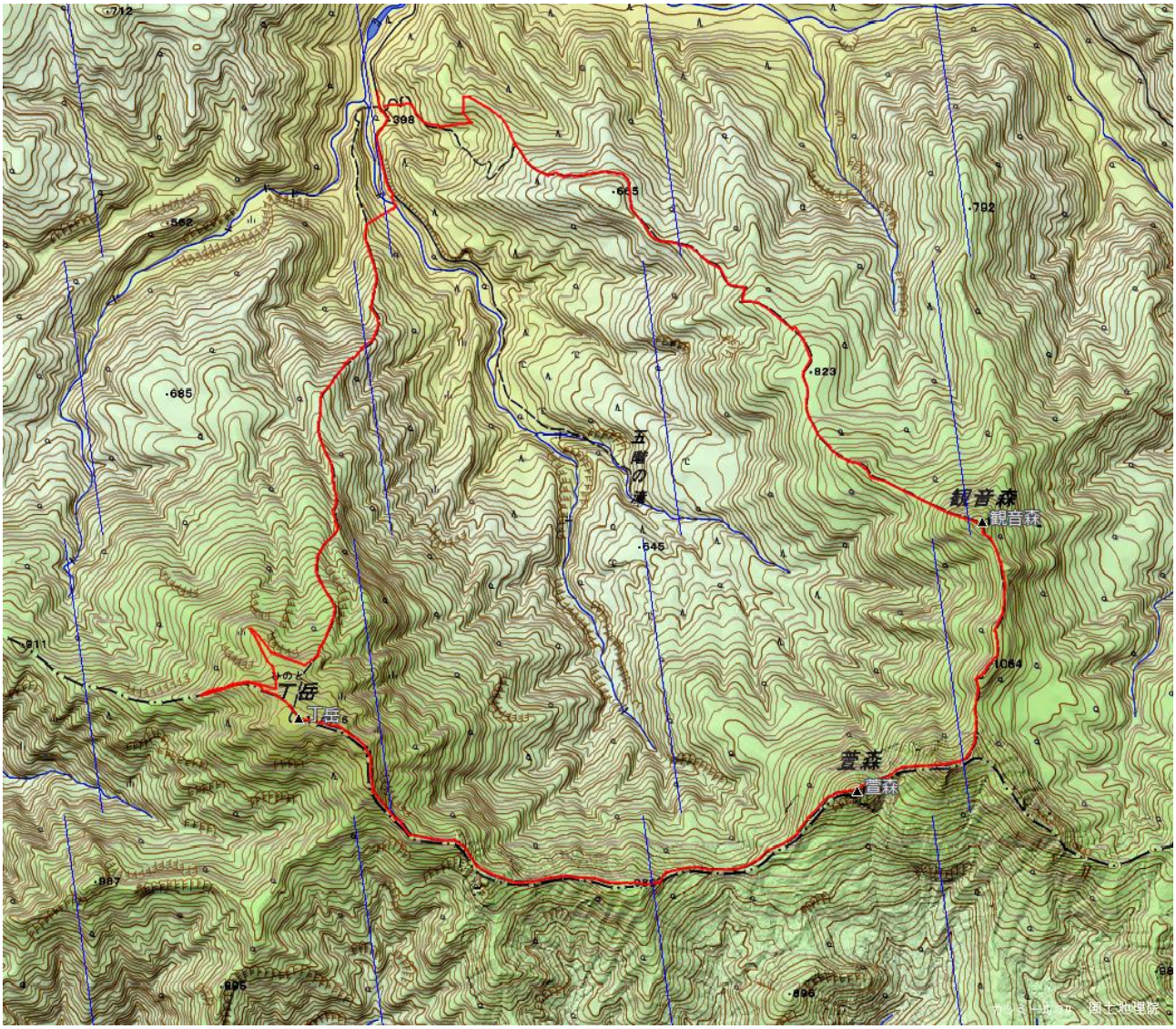
険しくなるという情報なので、スリング、カラビナを肩にかけて備えるが、怖い所はあったものの使うことなく終えた。萱野森と庄屋森、観音森を過ぎると長い下りになる。伐採地過ぎると登山口に着く。

僅か 1,145mの低山であるが、痩せ尾根の急斜面の登下降の繰り返し。

登山口からの丁岳の標高差は 760m なのに、縦走は標高差 1400m、10.8㎞、８時間１０分と侮れない山でした。

丁山地には甑山（男甑・女甑）、加無山（男加無・女加無）等、標高は低いが険しく、奇怪な岩峰、巨木が豊富な魅力的な山があり、もう一度行ってみたいとの思いを強くしました。同行してくれた国井さん、安部さんありがとうございました。

（文責：秋葉）

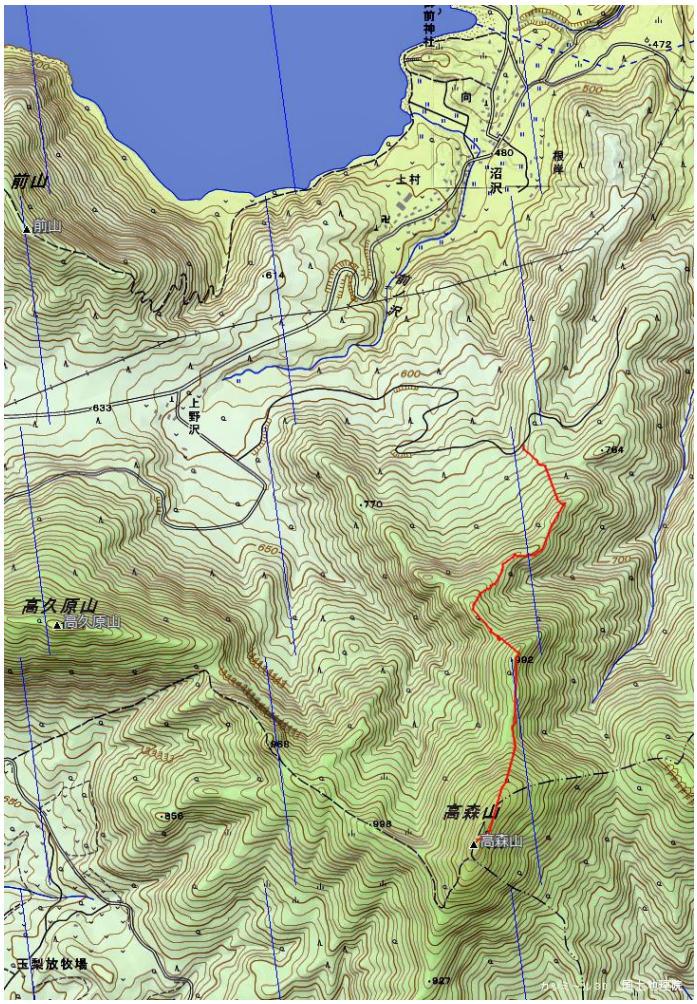

712
398
665
562
792
823
五龍の滝
645
観音森
観音森
1064
丁海
丁岳
萱森
萱森
987
895
896
国土地理院

只見線の山旅

2022 年 10 月 24 日(月)～26 日(水)　秋葉

24 日（月）　只見線が開通したので出かけてみました。平日にもかかわらず、2 両の客車は満員。「飲み鉄・只見線」考えていたが、それどころでなく、往復 8 時間立ちっぱなしでした。紅葉の始まりで素晴らしい景観でした。道の駅「会津」で車中泊。

柳津駅 7：04～川口駅 8：05～只見駅 9：07～小出駅 10：41。小出駅 13：12～只見駅 14：25～川口駅 15：25～柳津駅 16：27



25 日（火）　**高森山 1,100m**　沼沢沼の南に位置する。何十年前に登った時にブナ林の山だったことを記憶している。昨年登ろうとしたが登山口を見逃してしまって登らずに帰ってきた。

トラーロープが連続してある時間はかからないが結構険しい山である。木立の合間から見える沼沢沼と紅葉の前山・惣山、飯豊や博士山、志津倉山、博士山も展望できる。何といっても嬉しいのは、ヌメリスギタケとクリタケを大量に見つけたこと。味噌汁 1 杯分だけを採取。登り 1：50、下り 1：30。道の駅「あいづ」で車中泊。

26 日（水）　観音沼森林公園を散策。紅葉真っ盛り。カメラマンでにぎわっていました。展望台からは那須の山、会津の山々が一望できました。　（文責：秋葉）

移ヶ岳（994.5m）周回。うつくしま百名山・船引五山

2022 年 10 月 26 日(水)　太

移ヶ岳は、山容も美しく、距離が短い割に変化のあるコースで、山頂からの眺望も良いので、近隣では好きな山のひとつである。四阿、水洗トイレもある中腹の瑞峰平駐車場から周回した。

西登山口から舗装された小道を登ると、すぐに移ヶ岳神社。その先からは未舗装の作業道のような道になる。終点は車の回転場所で小さな広場。そこの案内板に、350mほどで山頂とあるが、ここの先から斜面は急になり、ロープも設置されている。登って岩峰に立つと 360 度の展望が得られる。大滝根山や日山など阿武隈の山々、安達太良連峰向こうには磐梯山も。鞍掛山、市街地近くに片曽根山も見える。尾根を彩る紅葉も美しい。しばし休憩して下山する。山頂から周回コースへ進むと岩峰の下を横切る場所があるので、張られたロープで注意して渡る。その先は笹に覆われた斜面をほぼ直線的に作業道へと下るのだが、途中で賽の河原を通る。平らな場所で多少の岩もあるが、樹林の中であり、開けた場所ではない。作業道から、さらに下ると舗装道になり、瑞峰平への舗装路に続く。

コースは、全体的によく整備されているが、メインルートは西登山口側のようで、東登山口側よりも草刈りがなされていた。全体的に危険個所はないが、山頂近くの採石場跡地には注意されたい。

コースタイム

10：20 瑞峰平駐車場（西登山口）→10：25 移ヶ岳神社→10：45 作業道終点→10：55 移ヶ岳→11：15 賽の河原→11：20 作業道→11：30 舗装路終点（東登山口）→11：40 瑞峰平駐車場

文責：太

口太山・日山・竜子山

太平洋・鎌倉岳・桧山

桧山・大滝根山

黒石山・鞍掛山・片曽根山・郡山市街

常葉鎌倉岳（966.8m）萩平登山口往復

2022 年 10 月 26 日(水)　太

移ヶ岳に登った日、屹立する鎌倉岳がよく見えたので、同日午後に登ってみた。鎌倉岳は、うつくしま百名山であるが、東北百名山、花の百名山、新・花の百名山でもある。今回は紅葉だが、花の季節、氷雪の季節も風景、眺望が美しく、年に何度も楽しめる。

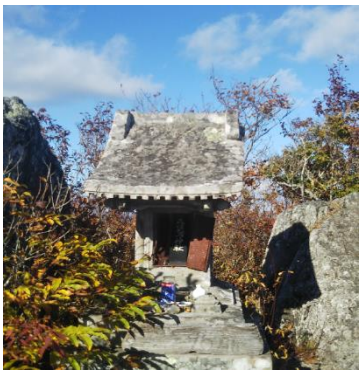
平日で、勝手もわかる山なので、トイレのある駐車場をパスして、登山口そば、カーブ内側の路肩に車を停め、登り始めた。鰍登山口からのコースと合流した先の急登、肩に乗る少し手前で東京から来たソロの女性とすれ違う。伺うと霊山に登って時間が余ったので、移ヶ岳と鎌倉岳も登ったのだと言う。健脚ぶりもだが、平日３座踏破の時間的余裕が羨ましい。別れを告げて肩から山頂へと進む。

山頂は午前中の移ヶ岳と同じく、全周囲展望で素晴らしい眺めである。西側の展望は郡山や福島の市街地が遠くなったが、東側は近くなる分太平洋がよく見える。南北の大滝根山、日山はほぼ正面に見える。祠の脇で少し休憩してから登った道そのままに下山した。

人気のある山なので、コースは良く整備されている。急な場所にはロープは設置されているが、山頂付近の急峻な場所と、斜めになった岩の上を通る場所は、足元に注意したほうがよい。

コースタイム

13：30 登山口→１０：２５鎌倉岳→14：55 登山口



山頂の祠・移ヶ岳方向の紅葉　　桧山の風車・大滝根山

紅葉の向こうに太平洋